

注文カード

帖合・貴店名

条件:注文扱・返条付

注文数

冊

黒死病

— 加藤秀造小説集

不二出版

西田 勝 編

定価 ● 3、135円 (本体2、850円 + 税10%)

ISBN 978-4-8350-8461-9

お名前

お電話番号

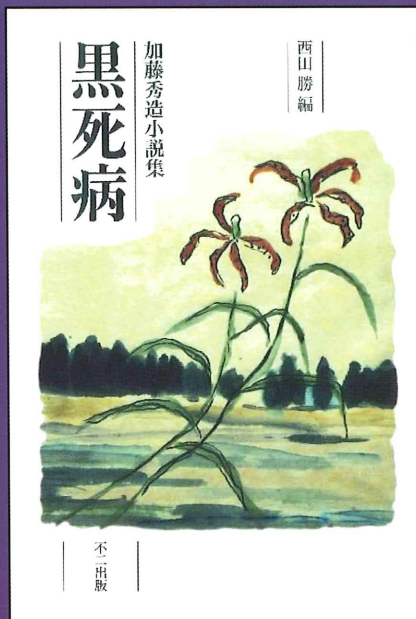
注文 年 月 日

不二出版新刊のお知らせ

黒死病 — 加藤秀造小説集 —

“満洲国”北満地域で、ペストの蔓延による都市封鎖！

戦後文学の忘れられた作家・加藤秀造の発掘された作品を収録！



西田 勝 編
 体裁：A5判 / 並製 / 308頁
 定価：3、135円 (本体2、850円 + 税10%)

「北満」で731部隊が行った細菌戦予行演習の実態を描き出す戦後文学の忘れられた遺産！

本小説集は表題の中篇小説のほか、敗戦後、対ソ軍事要塞の建設後に多数の中国人労働者をジェノサイドした将校がソ連へ連行される途中、戦犯追及を恐れて逃亡、河へ転落する『凍った河』、『シベリア出兵』時、多くのロシア人を殺害した事実に触れた『シベリアから還った息子』を収録する。いずれも作家の「満洲」と「シベリア抑留」体験から生み出された秀作である！

不二出版

〒112-0005

東京都文京区水道 2-10-10

電話 03-5981-6704

FAX03-5981-6705



1915年、宮城県名取郡中田村（現・仙台市太白区中田町）に生まれる。32年、東北学院英文科に入学、学生運動に参加するが、深い挫折感を抱いて退学。のち「満洲国」に渡り、浜江省警務庁に入る。次いで安東省警務庁勤務へ。43年、「新京（長春）」に出て雑誌記者となる。それ以前、「雁は北へ飛ぶ」や「凍麥（トンマイ）」など、「満洲国」の実態を垣間見せる記録小説を発表、「満洲国」文学の第二世代の代表的作家となる。敗戦後、ソ連軍によって連行され、シベリアに抑留される。47年に引揚げ、宮城県庁に入り、定年まで勤めるが、その間、職員組合運動に奔走する。県職員組合の委員長も務める。動乱期を終わって、再び創作意欲が起り、本小説集所収の「黒死病」「凍った河」「シベリアから還った息子」など、自身の「満洲国」やシベリアでの体験を素材にした記録小説や歴史小説を発表する。仙台地方社会の暗部に切り込んだ多くの作品も遺している。いずれも全体小説的骨格を持つ佳作である。1992年、病没。絶筆は「太宰治と魯迅」（未完）だった。

目次

黒死病

凍った河

シベリアから還った息子

編注

「黒死病」の背景 川村一之

解説 西田勝

略年譜 西田勝

初出一覧

カット 呂元明「北満風景」

装丁 秋田公士

◎表題作「黒死病」冒頭部分

黒死病

その朝早く、ハルピンの埠頭を出航して、^{スンガリー}松花江を遡った定期船は、ようやく黄昏近くになって、N県のお粗末な船着場に横づけになった。

まったく、船がそこに停泊していなければ、船着場とはわからないような、石を積んだ岸壁が十米ほど濁流にのぞんで続いているだけの、場所である。一日に上下便一回ずつだけだから、待合室も、切符売場もない。今、この船から降りた客は四人だけだった。新しく乗込む客は一人もいなかった。

附近の風景も、この船着場におとらず、味気なかった。だだっぴろい泥水の氾濫が曠野の中をうねうねと拡がっていた。低い土堤が流れを遠廻りにかこんでいたが、この土堤には青草も樹木も生えていない。ちよっとした雨でも河は忽ち溢れだし、土堤の土がむしりとられるので、草の生えるひまがないのである。

土堤の向うに平坦な野原が涯もなく波うっている。この地帯は松花江沿岸に多いアルカリ性土壌で、白っぽくひび割れた大地は、晩夏の炎熱にやかれてかさかさ干上り、微風に煽られた灰色の土煙が野つら一面にゆらいでいる。地平線に沈みかかった太陽は、この土煙の蔭で^{はちまき}酸漿色に色づいていた。

定期船は、やがて出航合図の鐘をならし、船尾の朱塗りの水車を烈しく回転させながら、ひとまわりぐ